

都市再生整備計画(第4回変更)

吉田町地区

島根県 雲南市

平成20年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	しまねけん 島根県	市町村名	うんなんし 雲南市	地区名	よしだまちぶく 吉田町地区	面積	19 ha
-------	--------------	------	--------------	-----	------------------	----	-------

計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

大目標：鉄山師の街並みとして、内外にアピールできる環境整備を行い、入込客の増大を図り、居住者の地域に対する誇りを高める。

目標1	個性ある街並みを形成し、より多くの観光客をこの地へ誘客する。
目標2	来客に対し、出来るだけ楽しめる環境を提供し、ツーリズム交流客となるようにする。
目標3	居住者の安全、安心を確保し、街並みに対する誇りを醸成する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・吉田町はたたら製鉄で栄えた田部家を中心にしたたたら製鉄の経営に携わった人々により構成され、独自の文化を現在に伝える町である。たたら製鉄は明治の洋鉄技術の導入によりすたれ、その後の木炭から石炭へ、石炭から石油へというエネルギー革命に伴い、人口の流失を続けてきた。さらに、昭和38年の豪雪により、過疎化は一段と加速していった。
 ・活性化対策として昭和59年より鉄を基軸とした取り組みを行い、この区域内に鉄の歴史博物館が建設され、昭和61年には鉄の歴史村宣言が行われ、鉄の歴史を有する村であることの認識が住民にも広がった。さらに平成2年ナショナルトラストが街並みに関する調査を行った。
 ・平成7年まちづくり委員会を結成し、この町のあり方、環境を検討し親水空間の整備に結びつけた。
 ・平成11年より街並みの整備に取り組み、吉田町まち並委員会を結成し、鉄山師の街並みづくりを目指し、住民協定を締結し、格子戸の設置や戸の変更などに取り組んでいる。そして、この活動が評価され、平成14年度の総務大臣表彰の住民団体部門で受賞した。
 ・平成15年1月市町村合併を睨んで、この街並み整備を基礎とする交流の拡大を(旧)吉田村のオンリーワン事業として位置づけることを決定した。平成15年2月には、この地域のさびれ対策のため、公民一体となった交流型商業開発委員会を結成し、市町村合併に向けたまちづくり対策を検討してきた。その中で街並み整備の検討。いかに交流人口を増やしていくのかの検討を行った。また商工会内部でも検討委員会を結成し、両者が一体となって北前船一坪博物館を実施していくことを確認した。
 ・民間にもこの地域振興を睨んで、(株)鉄の歴史村、(有)木村有機農園という2社の立ち上げがあった。とりわけ、前者はこの計画地域内に本拠を置き、ツーリズムの促進により、利益を得ていこうとする会社である。このように官民挙げてのまちづくり体制が形成されている。

課題

・吉田村は平成16年11月1日近隣5町と合併し、雲南市となる。行政の中心地から周辺過疎地への移行であり、吉田町での人の流れ、消費の落ち込みなど、さびれ対策が急務となっている。またこの地域も中心地の空洞化現象と高齢化現象を起こしており、新たな定住対策が求められている。
 ・中心の本町通りは歴史的街並みを有しており、且つ、坂の町でこの本町通りから小路が伸びた町であるが、車社会の到来により、車庫が確保できないなど居住環境からはマイナス面が多い。しかし、これが他にない街並みを形成している。交流人口の増大は住民の満足度を満たすものになる必要がある。

将来ビジョン(中長期)

景観に住民が誇りと自信を持ち交流としての求心力を持つ街並み区域

・雲南市の新市建設計画において、個性豊かな地域の連携による新市づくりのためオンリーワンプロジェクトで吉田地域では“文化遺産の保存など鉄の歴史村の継承”と“街並み整備や交流産業の開発”が位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
来街観光客数	人/年	(旧)吉田村における観光客数の内、当地区に立ち寄る人数 (観光動態調査から独自算出)	現状に対し3割の増とする。これからは街独自に訪れる機能が加わるようにする。	10,400	H14	13,600	H20
ツーリズム宿泊者数	人/年	ツーリズム交流人口の内、宿泊者数	ほぼ皆無からの出発であり、吉田町の経済的な指標、来訪起因の指標とする。	100	H15	230	H20
街並み居住の満足度	%	住民の街並みや居住環境に関する満足度 (満足度アンケートによる)	現状に対し7割の増とする。街並みという生活の不便性に対し、誇りを持って居住に対する満足度を増すようにする。	35	H16	60	H20
観光施設における売上額	千円/年	当該地区における観光施設の売上額	来訪者による経済の向上の指標とする。	2,021	H15	2,627	H20

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 (個性ある観光拠点の形成、にぎわいの創出)</p> <p>・鉄山師の街並みとしての整備。たたら製鉄で栄えた田部家を中心とした風情を残しつつ、電線類の地中化等の整備により、歴史的な風情環境の整備を図る。この整備により、街並みとしての情報発信、ツーリズムを図る上でのこだわり部分を形成していく。折から吉田町は農業集落排水事業に16年度着手しており、この本町通り地区を17年度施工する予定であり、これと一体的な施工を行う。</p>	<p>街なみ環境整備事業(道路舗装、堀越線、下綿屋小路、若槻屋小路)</p> <p>街なみ環境整備事業(電線の地中化)</p> <p>高質空間形成施設事業(緑化施設等、橋梁修景整備、鍛冶屋原橋、町鍛冶屋橋)</p>
<p>整備方針2 (観光滞在時間の増幅)</p> <p>・いかに歩いてもらうかという視点にたち路地を歩かせる工夫演出を行う。そのために、郷土が生んだ彫刻家内藤伸、鉄の風土としてのかつての作業風景等をオブジェ化するとともに、この場所から流通した鉄の逆流としての各地の名産品を集めた北前船関連の展示施設として一坪博物館を整備する。本整備により街の魅力を向上させることで回遊性を高め、観光滞在時間の増幅へつなげ、できるだけ多くの交流客の地元消費に結びつけるものとする。</p>	<p>高質空間施設(ストリートファニチャーの設置)</p> <p>地域生活基盤施設事業(ふれあい広場)</p>
<p>整備方針3 (居住環境の改善、防災整備)</p> <p>・吉田町は小路の入り組んだ町であり、防災上は危険な町である。しかし、この街並みを守りながら、この整備を図るための避難所の確保を行う。</p> <p>・災害や住宅密集地での火災に備え、防災センター、耐震性貯水槽の設置を行う。</p>	<p>地域生活基盤施設事業(地域防災施設、防災センター、耐震性貯水槽)</p>
<p>その他</p> <p>事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>当地域では、前述の(株)鉄の歴史村がまちづくり会社として設立された。この会社はこの街並みを利用した企画運営を行う会社であり、積極的なプロモーション活動を行う予定である。街並みの推進母体の吉田町まち並委員会とは協定において将来的な活動も確約しており、さらにNPO法人化も検討している。</p> <p>街並み形成の誘導を図るための方策について</p> <p>平成15年1月よりこの地域の景観条例については吉田町まち並委員会を始め、村の議会でも検討してきた。しかし、今だ制定には至っていない。今秋の景観法の制定や他地域の動向も考慮に入れながら景観条例の制定を再検討する。</p> <p>交付期間中の計画の管理について</p> <p>この計画の策定に当たって、この地域の住民団体が組織する交流型商業開発委員会で検討してきた。この組織の改編を行い、向こう5年間について、各種の事業を円滑に進め、目標に対し確実な効果を上げるために、毎年事業成果や事業の進め方についてモニタリングを実施する。</p>	

